

# 現代ブルガリア語の未完了過去時制における 完了体の用法について

菱川邦俊

## 1. はじめに

現代ブルガリア語の時制には3つの单一時制形（現在、完了過去、未完了過去）と6つの合成時制形（現在完了、過去完了、未来、未来完了、前未来、前未来完了）の計9つの形態区別がある<sup>1</sup>。

そのうち、未完了過去時制はそれについて言及される瞬間（立脚時間）において終了していない過去の動作や状態を述べるために用いられる形である。別な言い方をすれば、未完了過去は、発話の瞬間に對しては過去の動作を意味し、動作の行われている瞬間に對しては同時（現在）である動作を意味する時制である（例：Той се приготвяше за път, когато отидох при него. 「彼のもとを（私が）訪ねたとき、彼は旅支度をしていた」）。また、未完了過去は終了や結末を明示する必要がなく、問題となる過去の立脚時間の後に、その先でその動作がどうなるか、つまり、果たしてその動作が終了したか、あるいは発話の瞬間まで継続しているかについては言及しない時制である<sup>2</sup>。

ブルガリア語の未完了過去は現在語幹から作られ、完了体・不完了体いずれの体に属する動詞からも未完了過去を形成することができる（例：「行く」を意味する不完了体動詞 *отивам...отивах, отиваше*、その完了体動詞 *отида...отидех, отидеше*）。未完了過去においては、不完了体動詞が自由に用いることが可能であるのに対して、完了体動詞は自由に用いることができない。それは、完了体動詞がその性質として全体性の中での動作を意味しつつも、任意の個々の瞬間に對する未完了性を表わす動作を提示し得ないからである。

本稿では、実際の用例と先行研究を通じて完了体動詞による未完了過去の意味と用法について観てみることにしたい。

## 2. 現代ブルガリア語における用例

<sup>1</sup> ブルガリア語の「完了過去(минало свършено време)」をアオリスト、定過去と呼び、「未完了過去(минало несвършено време)」をインペルフェクト、半過去と呼ぶ場合もあるが、本稿では「完了過去」、「未完了過去」とする。

<sup>2</sup> 未完了過去の基本的定義については、Андрейчин 他 1977 : 238-239, Андрейчин 1978 : 194-195, Стоянов 1964 : 358-359, Пашов 1989 : 115, Пашов 1999 : 145 なども参照

現代ブルガリア語では、完了体動詞より形成された未完了過去形が単独で用いられることはないが<sup>3</sup>、過去において反復された動作を表わす主文と、一定の条件の下での従属文において用いられる場合がある。

アンドレイチン(1978:194)、ストヤノフ(1964:360)、アカデミー文法<sup>4</sup>(1993:331)、ゲナディエヴァ・ムタフチエヴァ(1970:21)、マスロフ(1981:252)その他から完了体動詞による未完了過去の具体的用例を挙げておく。なお、文学作品から引用したものに関しては例文の後に作者名を付した。

А как чудно Мирончо свиреше на флаута! Вечер например *седнеше* на чардака, *надуеше* я и тя *писнеше* из небесата, и всякой, който *чуеше, кажеше*: Мирончо свири.(Ив. Вазов)  
で、ミロンチョがフルートを吹いているなんて、何とすごいことだ！晩に例えればテラスに腰掛け、それを吹き鳴らし、フルートが空一面に響き渡ると、聞こえた誰もが言った。「ミロンチョが吹いている」って。

Щом забележеха дядо Недка, те прекъсваха работата си.(Й. Йовков)  
ネットコじいさんに気付くと、彼らは手を休めるのだった。

И който *доидеше*, най-напред питаше за Индже; него искаше да види.(Й. Йовков)  
やって来た誰もが真っ先にインジェについて尋ねた。彼に会いたがっていた。

Всяко утро, щом слънцето *се покажеше* зад делиорманските гори и пламнеше окъпаното поле, дядо Илийко се прикръстяше, запряташе крачолите и поемаше с кошницата да бере гъби.(А. Карадийчев)

毎朝、太陽がデリオルマンの森の向こうに顔を出し、湿った野を赤く染めると、イリイコ爺さんは十字を切って、ズボンの裾をたくし上げ、きのこ狩りの籠を手にするのだった。

С отворени очи Секула виждаше това, което всички виждат, *затвореше* ли ги – не ме питай, казващ тя.(С. Цонев)  
開いた目でセクラはみんなが見ているものを見ていて、目を閉じると、「私に聞かないで」と彼女は言うのだった。

<sup>3</sup> 例えば、アンドレイチンは「прочетях, тръгнех, погледнех, разкажех」のような形が個々に用いられるのは不自然に感じられる」と指摘している。(1978:195)

<sup>4</sup> いわゆるアカデミー文法の第2巻「形態論」は1983年に初版が出版された。筆者が引用したのは1993年に出版された第2版からである。以下、アカデミー文法とある箇所は、全てこの第2版からの引用である。

## 現代ブルガリア語の未完了過去時制における完了体の用法について

Не една, половин думица само да *кажеше*, и щяхме да отидем в пандиза.(Г. Караславов)

一言といわず、半言でも言おうものなら、(わしらは) 牢屋に行くところだった。

Кой откъде се *зададеше*, щом *видеше*, че пуши, веднага се връщаше назад.(Й. Радичков)

誰かがどこからか姿をあらわし、タバコを呑んでいるのを見ると、すぐさま向こうに戻って行くのだった。

Ако обаче децата я *видеха*, търтваха след нея...(С. Цонев)

しかしながら子どもたちが彼女を見たら、彼女を追って駆け出すのであった。

### 3. 完了体・未完了過去の主文における用法

完了体による未完了過去形が、過去時に反復された動作を表わす主文で用いられることが稀にある。

И Коно Крилатият *пухнеше* дим от цигарето право към небето и речеше...(Ив. Вазов)

俊足のコノもタバコの煙を宙に向かってまっすぐはくと、言うのだった…。

А как чудно Мирончо свиреше на флаута! Вечер например *седнеше* на чардака, надуеше я и тя *писнеше* из небесата, и всякой, който *чуеше*, *кажеше*: Мирончо свири.(Ив. Вазов)

で、ミロンチョがフルートを吹いているなんて、何とすごいことだ！晩に例えればテラスに腰掛け、それを吹き鳴らし、フルートが空一面に響き渡ると、聞こえた誰もが言った。「ミロンチョが吹いている」って。

Там, дето либе хубаво/ черни си очи *вдигнеше*/ и с оназ тиха усмивка/ в скръбно ги сърце *впиеше*/(Хр. Ботев).

深く愛している恋人が／黒い瞳をあげて／あのもの静かな笑みで／悲しい心を吸い込むのだった

ストヤノフが主文における用法として「完了体動詞による未完了過去が単文の中で用いられることはない。しかしながら、複文においては極めて稀にではあるが完了体動詞による未完了過去形が使用される。」と指摘(1964 : 359-360)しているように、いずれの主文の例文も単文ではなく複文の中で用いられているのが特徴である。

次に示すような不完了体による未完了過去の単文が表わす過去の反復・習慣的動作は、完了体による未完了過去の単文では表現できない。

Той често *пишише* писма на своите родители.

彼は自分の両親にしばしば手紙を書いていた。

例えば、「彼は自分の両親にしばしば手紙を書いてしまうのだった」という日本語の文が意味を成さないのと同じように完了体による未完了過去の単文 “Той често *напишише* писма на своите родители.” はブルガリア語しても成り立たない。このことからもストヤノフが指摘するように「完了体動詞による未完了過去が単文の中で用いられることはない」といえよう。

アンドレイчинは、未完了過去における大きな絵画性を醸し出す描写に対しては反復される動作に完了体動詞を使用することが可能であるとし、「より大きな描写の迫真性（一目瞭然性）に対して未完了過去時制の中で完了体動詞も反復された動作の際には、用いることが出来る」と述べ、その例として、上掲の例文 *Tam, дето...* を挙げている。(1978:195) 同様のことをアカデミー文法では、反復された（通常、総括的な）動作を表現するときに完了体・未完了過去を用いると表現している。(1993:329)

また、パショフは次のように述べている：「未完了過去は過去において反復された動作を叙述することが可能。Връщаše се вечер уморен, сядаше при огнището, запалваше си лулата...（「夜に疲れて帰り、炉の前に座り、パイプに火を入れたりしていたのだった。」）。反復性は完了体動詞を用いると、より強く強調される。Върнеше се вечер изморен, седнеше при огнището, запалеше си лулата...（「夜に疲れて帰ると、炉の前に座り、パイプに火を入れたりするのだった。」）」(1989:115, 1994:117, 1999:145)

パショフの挙げた例文も複文である点に注意したい。主文において、完了体より形成される未完了過去形が過去において反復された動作を表わすのは、動作の過程ではなく動作の反復が強調される場合で、かつ、一つの全体として示す動作が生起すると、次に継起する動作が行なわれることを提示する場合に限られると思われる。完了体動詞による未完了過去が本文の中で示す動作は特に次に継起する動作の前提条件を提示する役割を果たしているのではないか。Върнеше се вечер изморен...は、「疲れて帰る」という条件が満たされてはじめて次の седнеше...の動作が生起すると解される。つまり、完了体・未完了過去で提示される動作Ⓐが生起すると動作Ⓑ、動作Ⓒ…が継起する。その際、動作Ⓑや動作Ⓒ…は個々の動作の連続にではなく、繰り返される動作の全体性を表現する。主文において用いられる完了体・未完了過去は、一定の条件として提示する動作が必要であるが故に複文で用いられると考える。

#### 4. 完了体・未完了過去の主文における用法

完了体より形成された未完了過去形は從属文においてかなり頻繁に用いられる。

Щом забележеха дядо Недка, те прекъсваха работата си.(Й. Йовков)

ネトコじいさんに気付くと、彼らは手を休めるのだった。

Тук вършачките щяха да останат, докато дойдеше време за вършилба.(Й. Йовков)

脱穀のときが来るまで、ここに脱穀機がおかれるはずだった。

Не една, половин думица само да кажеше, и щяхме да отидем в пандиза.(Г. Караславов)

一言といわず、半言でも言おうものなら、(わしらは) 牢屋に行くところだった。

Всяко утро, щом слънцето се покажеше зад делиорманските гори и пламнеше окъпаното поле, дядо Илийко се прикръстяше, запряташе крачолите и поемаше с кошницата да бере гъби.(А. Карадийчев)

毎朝、太陽がデリオルマンの森の向こうに顔を出し、湿った野を赤く染めると、イリイコ爺さんは十字を切って、ズボンの裾をたくし上げ、きのこ狩りの籠を手にするのだった。

Всеки, който минеше оттам, неволно се поспирваше, поглеждаше я и радостно се усмихваше.(Й. Йовков)

そこを通った誰しもが思わずちょっと足を止め、それを見て、嬉しそうに微笑むのだった。

Накъдето и да се погледнеше, виждаха се разпрегнати коля, плугове и сеячки.(Й. Йовков)

目が向けると至るところに馬を外した杭や鋤、播種機が見えた。

И когато отново се появиаха в Люляково, започваха непрекъснати веселби в кръчмата.(Й. Йовков)

リュリヤコヴォにまた現れると、居酒屋でぶつとうしの余興を始めるのだった。

И който дойдеше, най-напред питаше за Индже; него искаше да види.(Й. Йовков)

やって来た誰もが真っ先にインジェについて尋ねた。彼に会いたがっていた。

Двете машини преминаха из село и влязоха в двора на Вълчана. Тук те щяха да останат, докато дойдеше време за вършилба.(Й. Йовков)

二台の機械が村を通ってヴァルチャンのところの庭に入つて行つた。脱穀のときが来るまで、そこにそれらの機械はおかれることになった。

Преди бях, “Той е!”, когато преди четири години се чудеха кой съм(В. Петров)  
4年前に私が誰であるか人々が驚いていたとき、私は自分である前に「彼だ！」であった。

С отворени очи Секула виждаше това, което всички виждат, затвореше ли ги – не ме питай, казваше тя. (С. Цонев)

開いた目でセクラはみんなが見ているものを見ていて、目を閉じると、「私に聞かないで」と彼女は言うのだった。

Кой откъде се зададеше, щом видение, че пуши, веднага се връщаше назад. (Й. Радичков)

誰かがどこからか姿をあらわし、タバコを呑んでいるのを見ると、すぐさま向こうに戻つて行くのだった。

Ако обаче децата я видеха, търтваха след нея...(С. Цонев)

しかしながら子どもたちが彼女を見たら、彼女を追つて駆け出すのであった。

Да(=ако) го видех, щях да му кажа.

彼を見たら、(私は) 彼に言うつもりだった。

Дето поминеше нашия трен, шапки захвърчаваха нагоре.(А. Константинов)

私たちの列車が通過したところでは、帽子が上へと舞い上がっていた。

アンドレイチンは「未完了過去で表わされる主文に対する一般的概念を意味する従属文において完了体動詞による未完了過去形に頻繁に接する」と述べ、この場合、従属文の述語動詞は主文同様に未完了過去になると言及している。(1978:195-196)さらにアンドレイチンは次のように述べている：「完了体動詞による未完了過去は、(動作の永続性や反復性を意味することなしに) 通常、過去未来の主文に対する従属文においても用いられる。」(1978:196)

ストヤノフによれば、従属文において完了体動詞が使用されるのは次の2つの場合である：「主文の述語動詞が過去時制の場合、完了体動詞を未完了過去に用いることが出来る。完了体動詞による未完了過去は表現される動作の反復性を意味する。この反復性は主文の述語動詞の意味にも頻繁に転意される。[...] 完了体による未完了過去は主文の述語動詞が過去未来時制の場合にも用いられる。」(1964:360)

従属文において完了体動詞による未完了過去形は、①過去の基準時において反復された動作、あるいは②過去の基準時から見て未来の動作を表わす場合に用いられる。

なお、完了体動詞による未完了過去は以下の接続詞で導かれる従属文の中で用いられる。

ако, ли, да, докато, щом, когато, като, където, дето, дорде

## 5. 完了体・未完了過去の叙想表現

クラステフの分類によれば、未完了過去には①未来形の代わりに確実性や断言を述べる場合 (След два дни започваще училище。「二日後に学校が始まるんだったっけ。」), ②畏まった関係をやわらかく述べる場合 (Исках да Ви помоля нещо。「あなたにお頼みしたいことがあります。」), ③忘れてしまったためにあいまいなことを述べる場合 (Ти кой беше? 「きみ、だれだったっけ?」), ④願望を述べる場合 (Да имаше нещо за пиене。「いま、何か飲み物があったらなあ。」)などの補足的意味と用法がある。(1993: 106)これらの用法は、いわゆる叙想表現で、話し手が叙述に際して抱く様々な想念を表現しているため、本来の未完了過去の用法とは区別すべき問題であるが、完了体動詞より形成された未完了過去形が叙想表現として用いられる場合もあるため、以下、その例を挙げておく。

По-добре да отидех след няколко дни, след седмица, когато всичко ще е свършило, (С. Цонев)

何日か経って、一週間後、全てが終わったときに行ってしまう方がましだろう。

Ex. сега да минеха с него(=немския фвтомобил) през селото!(С. Цонев)  
まったく、いま、この村をあやつ(あのドイツ車)で抜けられたらなあ。

Може би ще има време да отидех у тях.(З. Генадиева-Мутафчиева)  
彼らのところに行く時間がたぶんあるだろう。

アカデミー文法は、感嘆文における未完了過去の願望を表わす叙法的用法が話し言葉と文学作品に見られる点に言及(1993: 333)しているが、ゲナディエヴァ・ムタフチエヴァが指摘(1970: 76-77)している、不確実性や疑念の叙法的用法については指摘していない。

## 6. むすび

完了体動詞より形成された未完了過去形の表わす意味と用法について例文と先行研究により、検討してきた。未完了過去の意味・用法としては、①ある過去の瞬間に於いて終了していない、過程として描写される動作、②反復された過去の動作、③同時に生起する

過去の動作の並列、④ある動作についての背景や枠組みの描写、場所、出来事の描写などが挙げられる<sup>5</sup>。しかし、ブルガリア語の完了体動詞は動作との関係において総合的に動作を提示するため、これら全ての用法において不完了体動詞と同等に適用させることはできない。完了体動詞が未完了過去時制で使用できるのは、過去の反復を意味する場合に限定された（ただし、叙想表現を除く）。完了体動詞の未完了過去は大きな絵画を総括的に捉えるような反復を意味し、また、不完了体による未完了過去よりも反復性の強さを増やしたいときに、完了体動詞を未完了過去が用いられることが認められた。その他、特に主文では、単文で用いることが出来ず複文に限られることが認められたが、完了体・未完了過去を主文で用いる例は稀である。実際の現代ブルガリア語では、主文が表現する内容を別な表現手段により叙述しているわけで、この言い換えについては本稿にて言及しなかつたため、別の機会に論じたいと思う。

## 参考文献

- Андрейчин, Любомир (1978). *Основна българска граматика*, София, Издателство “Наука и изкуство” .
- Андрейчин, Любомир. Попов, Константин. Стоянов, Стоян. (1977). *Граматика на българския език*, София, Издателство “Наука и изкуство” .
- Българска академия на науките, Институт за български език (1993). *Граматика на съвременния български език, Том 2. Морфология, Второ фототипно издание*, София, Издателство на българската академия на науките.
- Генадиева-Мутафчиева, Зора (1970). *Подчинителният съюз ДА в съвременния български*

<sup>5</sup> 未完了過去の用例を以下に若干挙げておく。

・ある過去の瞬間ににおいて終了していない、過程として描写される動作: *Когато влязох в стаята, той пишеше писмо, а брат му слушаше радио.* 「(私が)部屋に入ったとき、彼は手紙を書いていて、彼の弟はラジオを聞いていた。」

・反復された過去の動作: *През сесията всяка сутрин отивах в университетската библиотека, вземах запазените книги, поръчвах нови (книги), четях до вечерта и се връщах късно в къщи.* 「試験期間になると、毎朝、私は大学図書館に行き、予約しておいた本をとり、新しい本を予約し、夕方まで本を読み、遅くに家に帰るのだった。」

・同時に生起する過去の動作の並列: *Всяка сутрин, докато чаках трамвая, преглеждах новия вестник.* 「毎朝、市電を待っている間、新しい新聞に目を通していった。」

・ある動作についての背景や枠組みの描写、場所、出来事の描写: *Градината беше пълна с деца. Едни играеха на топка, други се гонеха, трети седяха на пейката и пееха нещо с учителката си.* 「幼稚園の庭は子どもたちであふれていた。ある子どもたちはボール遊びをし、他の子どもたちは追いかっこをし、また別な子たちはベンチに座り先生と一緒に何か歌を歌っていた。」

現代ブルガリア語の未完了過去時制における完了体の用法について

език, София, Издателство на българската академия на науките.

Кръстев, Борислав (1993). *Граматика за всички*, София, Наука и изкуство.

Маслов, Ю.С. (1981). *Грамматика болгарского языка для студентов филологических факультетов университетов*, Москва, “Высшая школа” .

Пашов, Петър (1989). *Практическа българска граматика*, София, Държавно издателство “Народна просвета” .

Пашов, Петър (1994). *Практическа българска граматика, Второ допълнено издание*, София, Издателство “Просвета” .

Пашов, Петър (1999). *Българска граматика*, София, Издателска къща “Хермес” .

Стоянов, Стоян (1964). *Граматика на българския книжовен език, Фонетика и морфология*, София, Държавно издателство “Наука и изкуство” .

## 例文引用文献

Ботев, Христо (1980). Избрани творби, София, Български писател.

Петров, Владимир (2001). Ако Оруел беше жив, Политически есета, София, Университетско издателство “Св. Климент Охридски” .

Радичков, Йордан (1992). Свирепо настроение, Разкази, София, Издателство “Христо Ботев” , Издателство “Български писател” .

Цанев, Стефан (2001). Мравки и Богове, роман, Пловдив, Издателска къща “Жанет-45” .

## On the Usage of Verbs of the Perfective Aspect in the Past Imperfect Tense of Modern Bulgarian

HISHIKAWA Kunitoshi

In this paper an attempt is made to describe the meaning and usage of verbs of the Perfective Aspect in the Past Imperfect Tense of Modern Bulgarian, analyzing examples and the literature on this subject.

Verbs of the Perfective Aspect are used in the Past Imperfective Tense to express repeated action mainly. There are restricted usage on verbs of Perfective Aspect in the Past Imperfective Tense.